

対話型AIに対する依存

—カウンセリングの文脈での使用の危険性—

龍谷大学先端理工学部 知能情報メディア課程

野村 竜也

自己紹介

- 専門分野：HUMAN-AGENT INTERACTION, サイバー心理学
- 研究対象：AI・ロボットとの対話を通じた人の心理的・社会的影響の探索
- 主な経歴：
 - 1989年：大阪大学大学院理学研究科数学専攻修士課程終了
 - 1989年～2000年：シャープ株式会社技術本部
 - 2000年～2004年：阪南大学経営情報学部 准教授
 - 2004年～2011年：龍谷大学理工学部 准教授
 - 2011年～現在：龍谷大学先端理工学部 教授
 - 2003年～2020年：ATR知能ロボティクス研究所 非常勤客員研究員

依存とは

- その人にとって利益をもたらしていた習慣が、自己調節機能を持たずに続けられた結果、不利益をもたらすことになってしまった。それにもかかわらずその習慣が自動化し、制御困難になった行動（安田, 2004）
 - 注：特定の行為に多くの時間を費やしていても社会生活に影響が出ていなければ依存とは認めにくい
- 依存の種類：
 - 物質依存：薬物、アルコール
 - 行為依存：ギャンブル、万引き
 - 人間関係依存：夫婦間の共依存、異性依存

依存の特徴

- 顕著性：当該行動による生活・感覚・行動の支配
- 気分の変容：当該行動時のハイな感覚等
- 耐性：気分変容のための当該行動の増加
- 離脱症状：当該行動の停止による不快・身体的反応
- 葛藤：当該行動と仕事・生活・趣味との葛藤
- 再発：数年の我慢の後、もとの当該行動パターンの再発

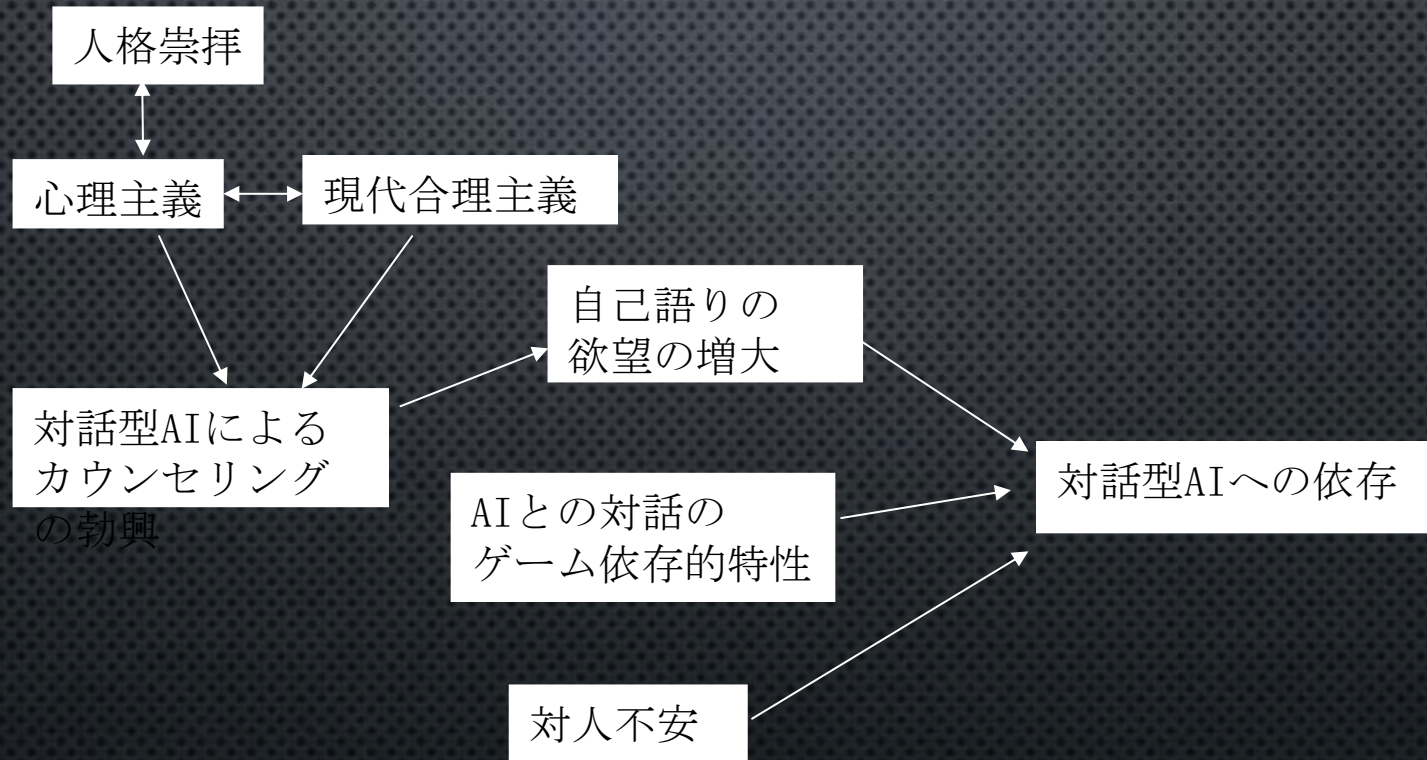
情報技術に関連する依存

- インターネットそのものへの依存
 - 90年代から既に問題視
- ゲーム依存＝インターネットゲーム障害（INTERNET GAMING DISORDER, IGD）：
 - 行為依存？
 - 正式な疾患とは未だ認定されていないが、DSM-Vでは要研究対象に
- SNS依存：
 - 人間関係依存＋行為依存？
- AIへの依存：どのような様態か？
 - そもそも起こりえるのか？

対話型AIと依存

- 対話型AI：
 - 音声対話であれ文字による対話であれ，人間からの言語による情報入力に対して自律的に判断して出力を行うことで対話を継続することが可能な人工知能プログラムやロボット等の人工物
 - SIRIやGOOGLEアシスタントなどの携帯用の音声アシスタント
 - CHATGPTやGEMINIなどテキストで人と対話する生成AI
 - 人の発話・表情・動作を認識し自然な会話やリアクションで交流できるコミュニケーションロボット
- 対話型AIへの依存：行為依存＋人間関係依存？
 - 行為依存の部分：道具としてのAI利用への依存
 - 人間関係依存の部分：自分に都合の良い他者への依存

対話型AIへの依存の可能性の構図（野村, 2024）



対話型AIへの依存の構図の各要素（1）： 対話型AIによるカウンセリングの流行

- 現代合理主義：
 - 効率性・計算可能性（数量化）・予測可能性・テクノロジーによるコントロール
 - 経営だけでなく教育分野でも
- 人格崇拜：
 - 個々人が相互に相手の人格にまるで神の神聖が宿っているかのごとく敬意を表し、その尊厳を傷つけないよう配慮しあう現代の傾向
- 心理主義
 - 個人の心理学的病理の原因を全て個人内部に還元し、結果として病理に関連する社会状況が隠蔽されてしまう現代の傾向
- 対話型AIによるカウンセリング
 - 個人の高度な自己コントロールのための、しかも人手を省くための手法

対話型AIへの依存の構図の各要素（2）： 対話型AIへの依存の流れ

- 自己語りの欲望の増大：対話型AIによるカウンセリング流行による影響
 - 現代においては自分が何者かであることを語る事（自己のナラティブ）が重要
 - それを利用したナラティブ産業や心理療法（ナラティブ・セラピー）が存在
 - セラピー名目で自分にとって都合の良いナラティブを維持したい欲望が存在
 - 対話型AIを（本来修正されるべき）ナラティブの維持に利用（AIの迎合性を逆に利用可能）
- ゲーム依存との類似性：
 - コロナ禍による罹患者の増加＋カウンセリング目的での対話の楽しさの可能性（特に若年層）
- 対人不安：
 - 世界レベルでの罹患者の増加＋対人不安傾向者が人よりもAI・ロボットとの対話を好む傾向

AI依存の研究の動向

- 2024年から研究が増加
 - COMPANION AI（人の感情や社会的要請を満たすAI）が人間関係の在り方に悪影響を及ぼす可能性の指摘（MALFACINI, 2025）
 - CHATGPTへの依存傾向を測定する心理尺度が提唱（YU, ET AL., 2024; MARAL, ET AL., 2025）
 - 生成AIへの依存についての研究も（GO, ET AL., 2025; EL-SAYED, ET AL., 2025）
- 現時点では統括的なものではなく、散発的

対話型AI依存傾向を測定するための 心理尺度の重要性

- 依存傾向の強度を数値化して初めて関連要因の探索が可能に
- 既存のAI依存尺度の問題点
 - 依存の特徴（顕著性、離脱症状、葛藤等）を意識した尺度構造
 - 依存行動の頻度に重点（道具的依存に焦点）
 - 人間関係依存の情動的側面が反映されていない
 - 文化差の問題も（「甘え」感情の日本独自性等）
- 日本独自の対話型AI依存傾向測定尺度の開発が急務

対話型AI依存傾向測定尺度を用いた研究の方向性

- 依存傾向に関連する個人特性の探索
 - 自己愛傾向、対人不安傾向
- 依存傾向に影響する技術的特性の明確化
 - AIの迎合性、擬人化の強度
- 依存傾向から帰結される個人への影響の明確化
 - 道具的依存による批判的思考態度の減退
 - 他の個人要因との交互作用で減退と増強の双方向の可能性も
 - 関係依存の情動面による社会からの孤立

補足：

JSTシンポジウム「『親密な他者』としての生成AI ～AI依存問題とトラスト～」(2026.5.29)講演者からの関連情報

- 京都大学 山下直美 氏
 - 米国での昨年度報告：生成AI使用用途1位はセラピー・COMPANIONSHIP
 - 単純な人間関係の代替はむしろWELLBEINGの低下に
 - 脆弱な人々ほどAIに依存、孤立・分断化→人間関係構築が困難な人の増加
- 青山学院大学 河島茂生 氏
 - 相談相手としてのAIの利用は増加（即時応答性、同調性、好みに合わせたキャラ付け）
 - 迎合性、商業化された親密性による過剰な信頼
→批判的思考の減退、他者性の欠如、人間関係に対する負担感の増加
 - 対AI関係構築による購買行動の誘導は消費者問題に

参考資料

- 安田 美弥子. (2004). 現代のこころの病 アディクション. 太陽出版.
- 野村竜也. (2024). 対話型エージェントへの依存: 心理カウンセリングの文脈での危険性に関する考察. 認知科学, 31(3): 474-480.
- KIM MALFACINI. (2025). THE IMPACTS OF COMPANION AI ON HUMAN RELATIONSHIPS: RISKS, BENEFITS, AND DESIGN CONSIDERATIONS. AI & SOCIETY, 40:5527–5540.
- SEN-CHI YU¹, HONG-REN CHEN, YU-WEN YANG. (2024). DEVELOPMENT AND VALIDATION THE PROBLEMATIC CHATGPT USE SCALE: A PRELIMINARY REPORT. CURRENT PSYCHOLOGY, 43:26080–26092.
- SIBEL MARAL, NAGIHAN NAYCI, HUZEYFE BILMEZ, ELIF İREM ERDEMİR, SEYDI AHMET SATICI. (2025). PROBLEMATIC CHATGPT USE SCALE: AI-HUMAN COLLABORATION OR UNRAVELING THE DARK SIDE OF CHATGPT. INT J MENT HEALTH ADDICTION (2025). [HTTPS://DOI.ORG/10.1007/S11469-025-01509-Y](https://doi.org/10.1007/s11469-025-01509-y)
- ADALIA Y.H. GOH, ANDREE HARTANTO, NADYANNA M. MAJEED. (2025). GENERATIVE ARTIFICIAL INTELLIGENCE DEPENDENCY: SCALE DEVELOPMENT, VALIDATION, AND ITS MOTIVATIONAL, BEHAVIORAL, AND PSYCHOLOGICAL CORRELATES. COMPUTERS IN HUMAN BEHAVIOR REPORTS. [HTTPS://DOI.ORG/10.1016/J.CHBR.2025.100845](https://doi.org/10.1016/j.chbr.2025.100845)
- AHMED ABDELWAHAB IBRAHIM EL-SAYED, SAMIRA AHMED ALSENANY, MAHA GAMAL RAMADAN ASAL, IBRAHIM ALASQAH. (2025). DEVELOPMENT AND VALIDATION OF ARTIFICIAL INTELLIGENCE ADDICTION SCALE FOR RESEARCHERS: A METHODOLOGICAL STUDY. JOURNAL OF NURSING MANAGEMENT. [HTTPS://DOI.ORG/10.1155/JONM/8458533](https://doi.org/10.1155/JONM/8458533)